（別紙様式）

令和６年度かながわ学びづくり実践研究推進校　実践報告

三浦市立三崎小学校

研究テーマ：『三崎とつながり、世界とつながる』
～言葉を介して他者と「関わり合う力」の育成～

１　実践の目的

本校の児童は、相手と親しみを持って関わることが得意な子が多い。一方で、相手の言葉を受け止めて、他者と合意形成を図ることが苦手な児童が少なくない。そこで、他者と気持ちや考えを共有しながら、言葉を介して、人間関係を形成できる児童を目指して、研究テーマを『「三崎とつながり、世界とつながる」～言葉を介して他者と「関わり合う力」の育成』とした。児童が他者とよりよく関わることができる能力の獲得を目標としている。

２　実践の内容

研究を進めていくにあたり、児童の自己肯定感が低いという実態が見えてきた。自信がないことで、コミュニケーションが円滑に取れないことや、学習に対して前向きになりにくいことが確認された。そこで、児童の自己肯定感を高めていくこと、言語を用いて他者と交流することの良さを児童が実感できるようにすることに重点を置くことにした。

児童の自己肯定感を高めるために、児童にとって故郷となる三崎の魅力を発見していくことにした。三崎はたくさんの魅力にあふれている。自分たちの故郷が最高だと感じられたときに、児童の自己肯定感が高まるのではと考えた。児童らがその良さを学び、身近な人だけでなく、多くの人に発信することで、自分たちの地域に誇りを持てるようにしていきたい。そこで、三崎の魅力に触れる機会をそれぞれの学年で検討し、生活科や総合的な学習の時間において地域の魅力について学ぶことにした。

また、本校は、教育課程特例校の指定を受け、令和５年度から「グローバル表現科」という科目を新設している。「グローバル表現科」では、外国の文化や習慣を知ることで、児童の見方や考え方を広げていくことを目的としている。

そこで、学校研究において、総合的な学習の時間での学びと、グローバル表現科の取り組みを相互に関連させながら、児童のコミュニケーション能力の育成を図ることにした。将来的には、国を超えて三崎の魅力を発信できる児童になれるようにしていく。主な実践内容は以下の通りである。

【生活科・総合的な学習の時間】

〇１年生

みうら夜市について、三浦市のもてなし課の方に話を聞いた。１年生ならではの、「三小夜市」を開催した。

1年生
「三小夜市」

〇２年生

学区探検を通して、三崎の下町にある建

物などについて、子どもたちと見学した。見学したところではインタビューをし、三崎の良さに触れた。

〇３年生

三崎のマグロについて詳しく調べた。地元の卸業者の方や飲食店の方のお店に実際に見学をした。

〇４年生

三崎の伝統文化について触れた。主にいなりっ子、チャッキラコ、例大祭について、地域の詳しい方に話を聞くなどして三崎の魅力を学んだ。

〇５年生

北原白秋について詳しく調べた。調べていく中で、白秋会の方を招き、話を聞くことができた。学習したことをもとに劇を作った。

〇６年生

大漁旗について調べた。実際に大漁旗を作っている職人さんから大漁旗の起源や作り手の方の想いについて話を聞くことができた。三浦夜市について、もてなし課の方から話を聞くことができ、夜市当日、一部イベントに児童が参加できた。

6年生
三富染物店さんの授業

〇学校全体

三浦夜市で大漁旗を用いた灯篭を作ることになった。この大漁旗の作成において児童全員が絵付けに参加することができた。

6学年で取り組んだ大漁旗の絵付け

【グローバル表現科】

〇１・２・３年生

常駐している ALT と英語に取り組む時間（インディータイム）を設け、英語のチャンツや絵本の朗読、基本会話の挨拶などに取り組んだ。

〇４年生

地域の技能実習生と交流して、それぞれの国の文化について話を聞いた。

4年生
技能実習生との交流

〇５年生

香港のバプティスト小学校と、オンライン交流をした。三崎の魅力を発信したり、反対に香港の良さについて聞いたりした。

5年生
香港とのオンライン交流

〇６年生

台湾の實人実験教育小学校とオンラインで交流した。それぞれの食事や生活習慣について交流した。

6年生
台湾とのオンライン交流

３　実践の成果と課題

今年度から本研究テーマで、地域学習と国際交流の取り組みを始めた。初年度とい

うこともあり、それぞれの学年の先生と研究をすすめるにあたって「とにかくやってみよう」の精神で、それぞれの先生が考えた地域の魅力ある教材を見つけたり、国際交流の機会を設けてきたりした。

成果としては、それぞれの学年が模索した結果、実践を数多く積み上げられたことである。総合的な学習の時間では、学校全体で、地元三崎に関心を寄せることができた。またグローバル表現科では、国際的な交流を通して、英語のやりとりや、外国の人との交流について、心理的なハードルが相当下がっている。外国の人たちと数多く交流できたことで、児童の自己有能感や自己肯定感を高めることができた。実践の一部では、次年度以降も継続していくことになるため（高学年の香港や台湾との交流）、各学年の実績によって、次年度につなげることができた。

課題としては、各学年の実践について、学校全体で情報を共有したり、互いに検討したりすることが難しいことがあげられる。今後は、研究推進委員が互いの進捗について確認したり、情報を共有したりする場を、見通しを持って設定することが必要になることが分かった。

４　今後の展開

今後、三崎の魅力を新たな視点で見ていき、三崎を誇れる児童を一層増やしていきたい。また、国を超えて、地元の良さを伝えられる児童を増やしていきたい。そのためには、今後も三崎の魅力を題材にした学習を継続して行いたい。また、現在は香港や台湾の小学校と交流することができたが、それ以外の国とも交流することができたら、より一層子どもたちの視野や考え方が広がるだろうと考えている。今後も交流先について模索していきたい。